

2016.6.14 日本眼科医会 記者懇談会

パシフィック・パートナーシップ2016

(公社)日本眼科医会 小沢忠彦

南太平洋眼科医療協会
(小沢眼科内科病院)

防衛省



パシフィック・パートナーシップの概要

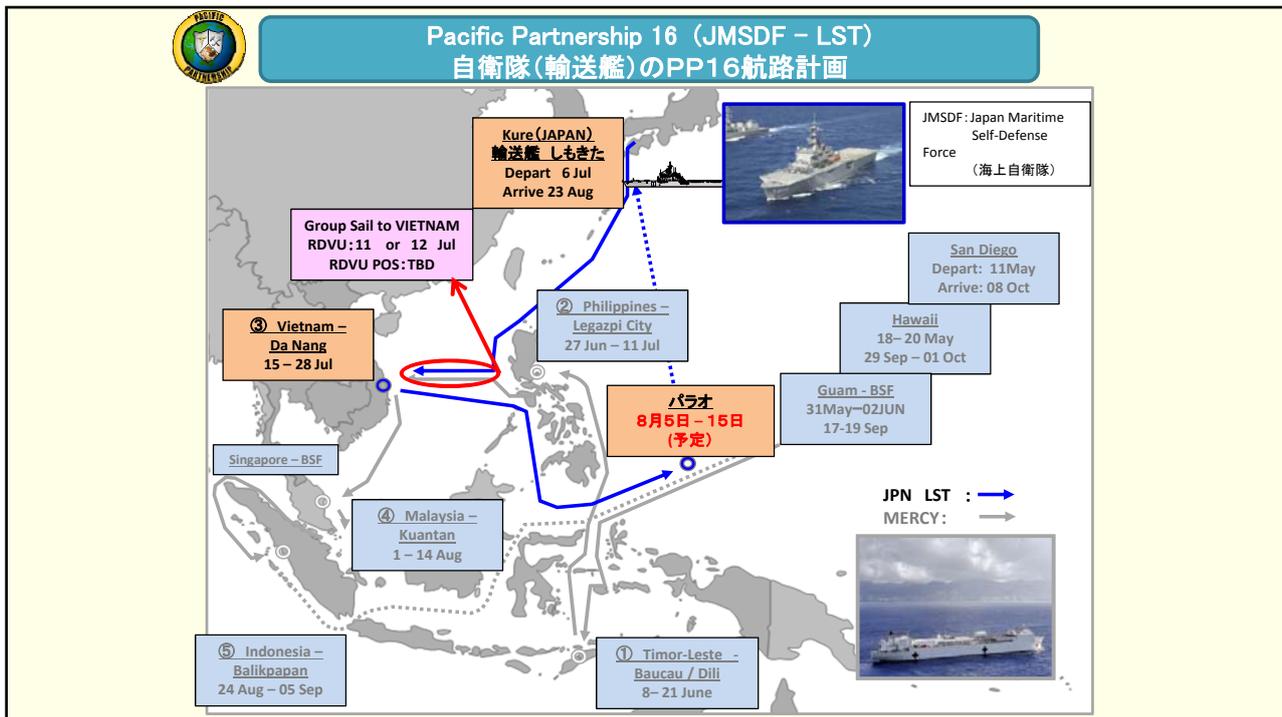
2007(平成19)年より行われているパシフィック・パートナーシップ(PP: Pacific Partnership)は、米海軍を主体とする艦艇が域内各国を訪問して、医療活動、土木事業および文化交流などを行い、各国政府、軍、国際機関およびNGOとの協力を通じ、参加国の連携強化や国際災害救援活動の円滑化などを図る活動である。わが国は、07(同19)年以降、自衛隊医官や部隊などを派遣している。

2015(同27)年は、5月から、フィジー、パプアニューギニアおよびフィリピンに自衛隊医療要員、陸自施設要員および海自艦艇を派遣しており、8月まで活動することとしている。
(-平成27年度防衛白書 第3部)

パシフィック・パートナーシップの活動の焦点(医療)

- 災害対応/復興計画と訓練
- 直接医療(患者)支援と医学的な災害対応、災害後の健康管理に関するテーマに係る健康協力関与
(以下は、活動の焦点)
 - ・患者の移送(災害救援活動、治療地点への移送、航空移送)
 - ・基礎的初動対応
 - ・精神的治療
 - ・緊急管理/対応と集団治療
 - ・伝染病(水媒体を含む)
 - ・軍事力を活用した健康防護
 - ・人間/動物/環境の共通の健康問題
 - ・医療機材の予防整備
 - ・予防薬(台風被害による飲料水、食品、有害廃棄物等)
 - ・更なる活動に関する事項は合同チームで検討
- 捜索救難(SAR)と航空偵察 -災害後の被害確認





“輸送艦しもきた”と“LCAC”について




艦型	Class	Osumi Class
艦種	Type	LST (Tank Landing Ship)
排水量	Displacement	8,900 Tons (Standard)
全長	Length	178m
全幅	Beam	25.8m
高さ	Draught	17.0m
吃水	Draft	6.0m
推進力	Propulsion	2-Diesel Engine, 2-Shafts
速力	Speed	22 knots (41km/h)
乗員数	Crews	138 person, 330 Troops
武器	Armament	2-20mm Phalanx CIWS
航空機	Aircraft Carried	2-Landing Spot, Park up to 8 helicopters
搭載	Carry	2-LCACs, up to 10 Tanks

艦型	Class	LCAC (Landing Craft, Air Cushioned)
全長	Length	26.4m
全幅	Width	14.3m
推進力	Propulsion	4-Gas Turbines Engine, 2-Propss
速力	Speed	40+ knots (74km/h)
乗員数	Crews	5 person, 20 Troops (200 Troops Use Personal Transfer Module)
搭載	Carry	60 tons (up to 75 tons in an overload conditions)



PALAU Overall Mission Objectives

パラオにおける全般活動計画



Mission Objective		Republic of PALAU
Medical	Seminar セミナー	Disaster response/recovery planning & exercises (JAPAN Planning Twice) 災害復興等（日本企画、2回）
	Direct patient care (include onboard LST) 野外診療 (艦内医療提供含む。)	JAPAN Planning(One or Two Place) 日本企画で実施（1又は2ヶ所）
	Engineering 施設	Design and Construction (1Place, Dispatch 1 team (15 Engineers)) 設計から施工（1ヶ所、1チーム（約15名）を派遣）
	Japan Culture 文化交流	Introduce Japan Culture(LST Crew) 日本文化紹介（L S T 乗員）
Supply Transport 物資輸送	LST	Under Confirmation(確認中)
	LCAC	Unloading transportation 生地展開
	C-130H	Under Confirmation(確認中)
	Other Objective その他の活動	War Memorial Event 慰霊祭



ラバウルでの診療活動

・PNGでの後半(7月5日から10日)はラバウルにて活動。米軍と共に、大学の校舎を利用したの仮設診療所を設置。連日大勢の患者が並んだ。



NGOによる内科診療



歯科診療



NGOナースによる症状聞き取り



診療を待つ行列



歯科レントゲン装置の操作を米軍に指導



薬局にて薬を配布



米病院船「マーシー」船内での手術および病棟看護

- ・マーシーには12の手術室が存在し、一日当たり30件程度の手術を実施。
- ・口唇裂や白内障の手術が多かった。
- ・日本隊は、手術は助手もしくは見学としての参加。



一般病棟



神経ブロック(麻酔科)



下肢切断(外科)



口唇裂(形成外科)



白内障(眼科)

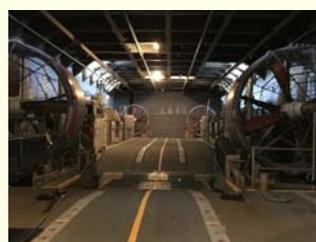


ICU病棟

艦艇オペ室



艦艇 ホバークラフト



ビジョンバン



眼科医療支援活動：キリバス共和国

南太平洋眼科医療協力会(2015)



ペリリューの戦い

●水戸歩兵第二連隊（大日本帝国陸軍）

戦争：太平洋戦争

年月日：1944(昭和19年)年9月15日 - 1944年11月25日

交戦：アメリカ軍（総員：約48,000人）－日本軍（総員：約10,500人）

場所：パラオ諸島 ペリリュー島

結果：アメリカ軍の勝利



オレンジ・ビーチで日本軍が構築した対戦車壕で一息つく海兵隊歩兵



日本軍が斜面を利用して構築したトーチカ



日本軍の陣地と米軍の侵攻図 - Wikipedia

出典：ペリリューの戦い - Wikipedia

旧日本軍とパラオ島民

【ある老人が若い頃日本兵と仲良くなり、戦況が日本に不利となった時「一緒に戦わせて欲しい」と日本兵隊長に進言したが「帝国軍人が貴様らなどと戦えるか！」と激昂され、見せ掛けの友情だったのかと失意の中、島を離れる船に乗り込んだ。が、船が島を離れた瞬間その隊長を含め日本兵が手を振って浜へ走り出てきた。老人はその時、隊長が激昂したのは自分達を救う為だったと悟ったという。】

- 旧日本軍

守備隊約1万人が、ほぼ全滅した。



- ペリリュー島の島民

陣地構築に徴用されていたが、日本軍が戦闘前に強制退避させたため死者・負傷者ともに0名とされる。

出典：ペリリューの戦い - Wikipedia



医療活動

- 日程

平成28年8月5日～15日



- 活動内容

・現地医療サイトにおいて原住民に対する

①眼科手術 ②眼科診療 ③眼鏡寄贈

・活動国の医療関係者との意見交換及び現地住民への公衆衛生教育



ペリリューの戦いから70年、変わらない日本とパラオの友好関係

ご清聴有難うございました。

2016.6.14 日本眼科医会 記者懇談会